

朝鮮の將來

(宇垣總督の演述)

昭和九年九月十一日京城帝國大學講堂に

全國中學校長の會同せる席上に於ける

宇垣總督の講演要旨なり



朝鮮の將來

閣下竝に諸君、御列席の大多數の方々には始めて御目に掛りますが、私は只今御紹介を蒙りましたる宇垣であります。

茲に帝國教育界の權威者が、斯くも多數に御揃ひで御來鮮下されましたことは實に空前の盛事として、吾々半島民一同の光榮とし深く感謝致して居る所であります。然るに折角佳客の御光來にも拘はらず、御歡待の術もなく萬事不行屆勝ちの事と存じますが、其の邊は不惡御宥恕を願ひます。

却說過般本會の主催者側の御方より、私に此の御催に出席して何か御話を申上ぐる様にとの御依頼がありました。元來私共は不言實行

とか、深沈寡黙とかとて、勉めて多くを語らぬ、黙々裡に仕事をする式の教養を受け、多年萬事を其の流儀で遣り遂げて參つたものでありますから、斯く多數の御歴々を前に控へて御話を申上げるなどの事は、誠に不慣れでありますから、如何すべき哉とも考へて見ましたが、今回の御催は外ならぬ帝國教育界の權威者の御集りのことでもあり、話の上手、下手などは考慮すべき限りでもなく、須らく進んで朝鮮の實狀竝に朝鮮統治に就ての愚見を申述べて清聽に達し、最近に於ける朝鮮の眞の面影と將來の動向とを理解し、認識し、更に進んで共鳴し、支持して戴くことは、私の當然爲さねばならぬ務であり、又夫れが君國に、將又朝鮮に忠なる所以であると考へましたに依り、不敏を顧みず此の壇上に立ち、暫く清聽を煩はすことに致したる次第であります。

朝鮮認識

の重要性

抑も朝鮮二千有餘萬の民心の向背、去就と、半島一萬四千餘方里の地域（本州より近江一國を除く大さ）の治亂、盛衰は、帝國將來の浮沈、國運の消長に至大の影響を有つことは申す迄もない事柄である。所謂朝鮮の動向は今後に於ける帝國々歩の進展に深甚なる利害關係を有するのであります。將又二千餘萬と大きく纏まつた、一つの民族と或る國が併合し、之れを統治致して參つたと云ふ歴史は遠い昔はいざ知らず、近世史上に於ては日韓の併合が初であると思ひます。英吉利が印度を領有しましたが、是れは二億何千萬の人口を有して居りますけれども、印度其の者の本質は言語、風俗、習慣、宗教等を異にする數十小國の集團に依つて成立して居るので、決して純眞且單一なる民族とは申し難いのである。其の他の國々を瞥見しても、二千餘萬と云ふ總

ての點に於てキチンと纏つた純眞民族を併合して、夫れを巧く統治し、夫れと甘く同化し終せた國は歴史上に未だ嘗て無く、日本には到底夫れは出來まいとの疑の眼を以つて他邦より見られつゝ、吾人は現在其の最初の試験臺に上つて居る所であります。此等の點から見ましても半島統治の成否、内鮮同化の遲速と云ふことは、世界環視の裡に於ける帝國の名譽に至大の關係を有する問題と申さねばならぬ。即ち帝國國運の消長に關する利害得失の上から考へても、世界列國に對する名譽面目の點から考へても、朝鮮の現在を程良く統治し、將來を適當に啓導して行くことは極めて大切な、誠に緊要なる事柄であると斯様に私は常々深く考へて居るものであります。所が果して日本の内地にある七千萬の多數の同胞が、只今私が申述べた如き心持を以て朝鮮を考へ、朝鮮に接して居るかどうかと申せば、遺憾ながら私は然らず、極

めて少しと申さねばならぬ様な感じが致すのであります。

現に兩三年前迄は政治家にして、「君、間島は何邊にある島か」と言ふ、落語家でも申しそんな奇問を發する人もあつたのである。又最近に於ても朝鮮米が内地米を壓迫するとか、朝鮮は棉産地であるとか、朝鮮木材が滿洲に澤山輸出されるとかの話を聞くが、釜山から京城を經て新義州に通ずる鐵道に依り半島を縦斷して見ても、山には不景氣な松の木が生へて辛じて禿げを隠して居る丈であり、又多量に米を産出すべき廣い耕地も眼に觸れず、棉の如きも鐵道沿線では殆んど見當らぬではないかと、不思議相な問が内地の立派な方々の口より發せらるゝ事が度々あるのであります。然るに各位御承知の通り、京釜線は日清戰爭中に得たる權利に基き將來戰に備ふべく工事の仕易い處を擇んで急いで敷設したものであり、又京義線は日露開戰中に前者同様の

方針で起工したものである。従つて産業上や經濟上のことは餘り、否殆んど顧慮して居らぬので、生憎全鮮中概して貧窶の地域を縦貫して居るのである。米や棉の豊富なる産地は湖南沿線地方や、黃海道の海岸地域にあり、又輸出材木は鴨綠江、豆滿江上流二百數十萬町歩に互る大樹海より伐り出されて居るのであるが、其の邊の消息は多數の内地人には未だ克く知られずに居る様であります。

斯様に、どうも内地にある方々の中には、朝鮮そのものに對する認識が十分ならざる向が頗る多い様に考へられます。従つて朝鮮に對する接觸も少なければ、理解も乏しい。延ひては同情も起らねば共鳴も出來ない。況んや進んで之れを援助し啓導すると申すが如き心境にあるのは、特別の緣故を有する極少數の人士に限られて居るのが今日の實際の有様であります。

從來内鮮融和と云ふ言葉が盛に使はれて居りますが、其の内鮮融和と云ふことは、朝鮮に在住して居る五十餘萬許りの内地人と、二千餘萬の朝鮮人とがよく融合し、仲好くして行くことゝ斯様の意味に多く解釋されて居る様であります。勿論夫れも必要でありますが、前に述べた如く半島統治の成否、内鮮同化の遲速は御國の利害、帝國の榮辱に至大の關係を有する點に考へ及ぼしたならば、決して左様な局限された、小さな意味合のものではないと私は確信して居る。則ち七千萬の帝國内地の民衆と半島二千餘萬の民衆とが、物心兩方面ともに渾然融合一體となり、一團となりゆくのでなければ眞の内鮮融和ではない。即ち同胞九千萬と申す言葉が、名と實と相伴ひ、相一致することにならなければならぬと深く信じて居ります。斯様な意義は無論各位には夙に十二分に理解せられ、同情も垂れられ、盡力も下さつて居る事と存

じますが、どうか今後一段と深く左様な點に思を致されて、眞の内鮮融和、九千萬同胞一體の實現に、一般國民を指導して、將來帝國の基礎を彌が上にも鞏固にし、帝國の新に結合せる民に對する統治の範と誇りとを全世界に示したきものと切望して止まざるものであります。

此の春も英國の樞密顧問官某卿が支那滿洲を視察して東京へ行く途中京城に立寄られたので、一夕緩りと會談を試みましたが、其の時の話の一節に「日本は如何にも宣傳が下手である。滿洲に對する世界の認識が足らぬとか、理解して居らぬとか矢釜敷論じて居る様であるが、夫よりも二十餘年前は今日の滿洲や支那よりも物心兩方面がより甚しく荒廢して居た朝鮮が二十餘年間の日本の統治の御蔭で、今日は斯様に萬事が立派になつて居るではないか、此の實相を知らせさへすれば、

ハハア―滿洲も日本の世話になり、指導を受ければ、二十年後には朝鮮の様に萬事整備せる立派な土地になれる。即ち夫れは滿洲三千萬民衆の幸福であり、延ひては世界人類も其の餘澤を蒙りて福祉を増進する事が出来るると直ちに合點することが出来る。朝鮮の實情を紹介して這邊の消息を世界に知らしむることが、理窟や議論よりも日本の對滿意思を世界に認識徹底せしむる最捷徑である」云々とありましたが、左程立派に朝鮮がなり居るとは私は思ひませぬが、兎に角朝鮮統治の成否、巧拙は、帝國發展の前途に明暗昇降を劃する分水嶺であり、又試金石であること丈は間違ひないと存じます。

只今迄御話申したことは内地の方々の朝鮮に對する認識の不足を訴へて、君國の大局より見て其の考慮を促したいと思ふ點を赤裸々に述

べたのでありますが、更に進んで朝鮮其の者は果して内地と渾然一體たり得べき素地を有して居るか、朝鮮人其の者は内地人と融合一元たり得べき資格を備へて居るか否やに就いて御話を致します。

—(10)—

思想界の

變遷と純

化

朝鮮は李朝の中葉以降の秕政の連續と、永年に涉り支那を宗主國として長い者には捲かれる主義の所謂事大思想の支配を受けて、日韓併合の當時迄は人心極度に荒怠萎靡して感激性も奮發心も消磨し、勤儉蓄積等の意氣は喪失し、自ら意識して進取向上を求むるの希望も理想もなければ、勇氣も無くなり、時代遅れの環境に餘儀なくされて來たのである。斯の如き慘ぢ目な、氣の毒な状態が可なり長い間繼續しましたから、何時とはなしに夫れが全然習慣性となり、一つの國民性を

なして、併合以後二十餘年を経たる近頃に至る迄も未だに充分其の弊習から脱却し得ざるの境遇に在つたのである。夫れに加ふるに東亞の大勢、自己の實力等に盲目なりし民衆は、併合の由來する崇高なる趣旨も深遠なる意義も諒解せず、一意感情的、無批判的に、帝國の統治や諸般の施設を厭ひて、折角愛情の籠れる親切、努力も、風馬牛吾不關焉と言はん計りに好意を以て迎へず、頗る冷眼視し、中には故意か無意識か所謂法三章式の簡易なる支配下に育ち來りしものゝ上に、急に民度文化の高き母國の法制や諸施設を直譯的に移入して、而かも其の内には現實に即せざるものもあつた爲に、咀嚼も理解も出來ず、寧ろ煩に堪へぬと云ふ風に面倒視し、五月蠅がらしめたる傾もある。其の他朝鮮人に接觸する内地人が、動もすれば驕慢の態度を以て、彼等を蔑視し淺薄低級なる優越感を振廻すなど、色々と思慮の足らぬ、

面白からざる經緯の錯綜したる結果として、朝鮮人は概して冷靜と公平の感覺、視野を妨げられて偏見狹量に傾き、帝國の施政萬端に悅服せざる、共鳴せざる心境に陥つて居た所へ猝然として世界大戰以降に世界を風靡せる思想界の變調の波動を受けて、獨立とか、民族自決とか、共產主義とかの思想が高調せられ、而かも夫れが一時は決河の勢を以て全鮮を風靡した時代もあつたのである。然るに半島に於ける帝國の權威も、立場も牢固として微動もせず、夫れに加ふるに歴代統治者の努力の累積と、兩三年來全鮮總動員的に強調し努力し來れる精神作興、地方振興、自力更生等の諸施設の具體化と、滿洲問題を對象として列強に對する大磐石の如き帝國の態度等は、相俟ち相扶けて民心に偉大の衝動感化を與へて、漸次に從來の偏見を擲ち、冷眼視より脱して、物事を正視し、凝視し、識者先覺の捧げる親切をも感ずれ

ば、盡せる努力も感謝するの雅量を有つに至り、將又更に積極的に、能動的に當局又は内地人と共存共榮、協同手を携へて事に當り、母國と浮沈榮辱を共にすべきであるとの氣分も横溢し來り、彼の自力更生運動の如きも、奇異に思はるゝ程、短時日の間に全鮮に普及徹底し、涙ぐましき眞劍味を以て夫れの實現に精進しつゝあるのが今日の實況であります。勿論今日とても多少の不滿、不穩の思想を抱き居るものは絶無とは申上げ兼ねる。従つて今後多少の波紋を描くことは在るかも知れぬけれども、夫れが大局に影響する様の事は帝國の健在なる限りは決して無い、否斷じて起さしめぬと考へて居ります。

斯くの如く一定目的に向ひ翕然として全鮮的に一致して動くと言ふことは、朝鮮の政治史上に未だ曾て見ざるの狀況であるとの批評も近頃耳に致すのでありますが、吾々は過褒の讚辭として相當の割引をし

て受取つて居りますが、恐らく今日の機運が軌道を踏みはずさず、正しく維持せられ、次第に助長せられて参りますならば、近き將來に朝鮮の物質界は素より精神界も餘程落付きのある、實力の充實せる、鞏固のものとなり得べく、而して吾人の理想とし信念とする、所謂皇道精神の發揚に、母國と扶けつ、助けられつ、互に手を携へて進み得る頼母しき伴侶、同胞たり得べき見込は十分なりと御承知願つてよいと確信を以て茲に申上げ得るのであります。

尙一と言附け加へて置きます。彼の不滿不穩の思想の抱持者は朝鮮内には先づ殆んどないと信じて居りますが、此等思想の抱持者は從來より多く極東露領、滿洲、支那就中上海邊を根據として策動して來たのであります。滿洲國獨立以來、極東の形勢に大なる變化を來せる今

日の所では、滿洲や露領や支那方面よりする蠢動の地歩は次第に壓縮せられ、解消せられつゝある状況であります。只吾々の憂慮致して居る點は、内地渡航の學生や勞働者達が、彼地に於て色々と不穩、破壊の思想の洗禮、使噓乃至は傳授、挑發を受けて、夫れを鮮内に移入し傳播するの形跡が今尙濃厚にあるかの如く感ぜらるゝことであります。内地が朝鮮に對する不穩思想、破壊主義者の搖籃地になりはせぬか、醞釀地ではないかと憂慮さるゝのである。切に各位の深甚なる考慮を煩はし検討を願つて置きます。

地方振興
と自力更
生

先刻は話が一寸地方振興自力更生のことに觸れましたから、少しく話題を其の方に進めます。即ち今日疲弊萎靡の極に在る半島を蘇生せ

しめ、更生せしむるには何と申しても、總人口の約八割を占むる農村の建直しと云ふことが最も先決問題であると考へまして、現在の統治に於て最大の力を込め、大車輪になつて遣り居るのが此の建直しの作業であります。今日内地でも農村問題の矢筈敷白熱化し居る折柄、朝鮮の夫れの一端を御紹介申上げるのも敢て徒爾ならずと存じます。

併合以來各般の施設は年を逐ふて面目を改めつゝあることは統治の大局より見て争ひなき事實でありますが、翻つて仔細に之れを見直す時は、尙未だ刷新改善を要するものが少くないのである。就中朝鮮實力の核心をなし、而かも最も窮乏を訴へつゝある現下の農村に付之を見まするならば、其の約八割は小作階級に屬する細農を以て占めて居るのである。此等は李朝中葉以降搾取、誅求に苦められて來たので、既に其の心境は著しく荒み、意氣は甚しく衰へ、所謂醉生夢死奮發心

も感激性も工夫力も消磨し、全く其の日暮しの悪習に墮し、自ら意識し發奮して其の生活を改善工夫するとか向上發展を圖るとか謂ふ様なことは乏しく、全く貧窶の環境に陥り、年々歳々食糧の不足を訴へ、高利の負債は逐年増嵩するのみならず、收穫時期には債鬼殺到して、彼等全年の努力の結晶物も、或は借入食糧の返済となり、或は負債利子の償還に充て、餘す所なく、春窮即ち端境期に於ては食糧が不足し、山野に草根木皮を漁りて辛じて糊口を凌ぐとか、袖乞となりて他家の門前に立ち、僅かに露命を繋ぐが如き誠に慘ぢ目な状態であつて、約言すれば朝鮮の農民中には過去に追はれ、現在に苦しみ、將來を樂むなどは全く思ひも及ばざると云ふ状態のものが頗る多いのであります。

併合以降此の窮乏を回復することが容易に出來ずして最近に至りし

原因が奈邊にありしかと申しますれば、一言にして盡せば農村の大衆が一般に無自覺であると言ふことに落付くのであります。更に之を具體的に申しますならば、一般農民が農村の特色、農業の本質、農村人の理想信念、所謂人生觀と謂ふ様な農村生活の基調となるべき大切な事柄に付ての理解が極めて乏しかつたのであります。之は獨り農民のみの罪に歸すべきものでなく、長い間の因習及政治、經濟、學術等に携はる者の此の點に關する認識、矯正、努力の缺如も斯くせしめたる一半の責を負ふべきである。従つて今後に於ける窮乏打開の途も亦自ら此等兩方面の覺醒に俟つて之を解決すべく今や正に其の方途に進みつつある所であります。

更に此等農民の無自覺は如何なる點に觸れ、如何なる點に禍するに至つたかに付考察するならば、先づ第一に自家の建直し、即ち生活、營

農に或る種の必要を意識して之が改善工夫を爲すことが無い爲に、各種農作物に尙幾多増收の餘地を残したまゝに、又餘剩勞力は利用消化の途を講ずることなく捨てたまゝにと申す様に、孰れも之を放任して顧みない。其の歸結は食糧の不足を補ふことも出來ず、負債の償還は素より利子さへも碌々拂へないのが普通である。更に經濟とか打算とかの觀念に疎い結果として必要の前には前後の事情も辨へず、極めて無頓着に高利の債務を新に作つて益々其の重壓に苦しみ、又自己の實力に不相應なる文化生活の風潮に煽られて、自給自足の經濟觀念を弛めたる隙に乗じて、交換經濟、貨幣經濟の風潮が不自然の状態に迄農村に喰ひ込み來つて、農村の社會組織の特色は破壊に導かれ、斯くして朝鮮の農村は積年の疲弊に更に一段の拍車を加ふるが如き慘狀に立ち至つたのである。

斯る窮乏の中に多數の農民が不安なる生活を續けて居るから、春窮期には食を他家の門前に、或は山野の草根木皮に求むるが如き事になる。昨日到城郭、歸來淚滿巾、遍身綺羅者、不是養蠶人とか米作人非米食者との古人の言葉も俛ばれて、如何に夫れが舊來よりの陋習、仕來りであり、自他共に怪まざる傳統的農村の姿でありしとは申しながら、誠に氣の毒で實に一視同仁にまします 陛下の赤子を永く此の状態に置くことは忍びない、相濟まざることである。而して此の多數の恵まれざる農民の存在は、正しく朝鮮統治の一大憂患であつて、其の生活の安定と向上とを放任しては、朝鮮の開発も進歩も、繁榮も斷して望み得ないのであります、之が對策を講ずることが、實に統治上最先最急の要諦であり、且其の根幹をなすものであると考へまして就任の翌年即ち昭和七年の初春以來夫れに大に努力を傾注して來つた

所であります。

然らば如何にして此の窮狀を匡救打開すべきか、如何にして其の運動を強化すべきかの方策に付案んずるに、凡そ二つの方策がある。即ち其の一つは土木砂防工事等の勞銀撒布に依る救濟施設がこれであり、他の一つは所謂自力に依る農業經營の改善、農家經濟の建直してある。前者は素より必要であり現に實行も致しては居るが、其の効果は一時的に農村に活を入れるやうなもので、恰も重病人に對するカンプル注射と同様で、時を経て更に又第二、第三の注射を要するものであります。斯の如きことは政府の財政の見地からしても永續せしむべき性質のものではない。畢竟するに眞に農村を救ひ、農民を根強く起ち上らしむる唯一無二の根本方策は、後者の所謂自力更生の運動で、即ち現に最大の力を傾注して實行中の農村振興運動より他に求むべき

方法はないと信じて居ります。而して此の運動は第一に農村今日の窮乏の因を成して居る點に遡つて其の方策を樹てねばならぬ。之れには先づ農村の特色と、農業の本質と、農民の理想信念、所謂人生觀の三つの重點に立ち歸つて農民は勿論、農村の指導に當る一切の關係者を擧げて之れを自覺せしめねばならぬこととあります。此の自覺を促進する方法として昭和七年春以來盛に精神作興、民風改善の教化施設に力を用ひたのである。之を基調として更に生活の改良、營農の改善、餘剩勞力の利用等の經濟施設に及ぼして農村の更生を實現しつゝある所であります。

此の自力更生運動は民衆が比較的今尙素朴、簡易生活に慣れて居り、農法は原始的にして改善の餘地大に存して居る關係上、着手後日尙淺きにも拘はらず、一般の自覺と、あらゆる公私機關、有識者の協

力一致せる努力と、全鮮總動員的の奮闘に依りまして着々と効果を擧げつゝある所であつて、五年八年の後には朝鮮農村の面目は一新し、實力は充實し、農民の生活は安定より更に其の向上の域にまでも進みて、裕に母國の進運に寄與貢獻し得るの見込が確立しかけて居る所であります。

而して尙當局としては此の運動を強化し、促進し、且効果的ならしむる爲に、農村中堅人物の養成に格段なる努力を拂ひ、高利の借金を低利債に借替へしむべく便宜を圖り、地税を引き下げて農村負擔の軽減を行ひ、低利資金を融通して自作農の創設に資し、小作法(農地令)を制定して地主小作人間の協調に依り農事の改良、小農の生活安定を圖る等、色々此の運動の大成に資すべき施設を致して居る所であります。斯くして農民が自覺し、農村が振興し、地方が樂園化せんとす

る結果として、田舎の人々が碌々仕事の無いのに都會地に集中し來らんとする、忌むべき傾向も漸次薄らぎつゝある様であります。此の運動に關する現時の目覺ましき、潑刺たる趨勢は恐らく今の所では母國に誇り得る朝鮮特色の一つであると申上げ得るのであります。尙又都會地の更生運動も地方振興と相呼應して今春來着手して居る所であります。

北鮮開拓

次に近年私共の格段に力瘤を入れ努力を致して實現を圖りつゝある一つの仕事は北鮮の開拓事業であります。實は鴨綠、豆滿兩江の上流地域には二百數十萬町歩に亙る原始林地帯が存在し、而かも其の大部分は千古斧鉞を入れざる儘に保存せられてあり、尙其の内には數十萬

町歩の農耕適地があるが之亦未開墾の儘放置せられて居る。此の未開の樹海に斧鋸を入れ、更に未墾の沃地に鋤鋤を加へんとする事業が所謂北鮮開拓である。目下は正に此の奥地に向つて鐵道を敷設し道路を開鑿し、既に或る部分に於ては伐採、開墾に著手しつゝある所もあります。

各位御承知の如く朝鮮の人口は内地以上の増加率を以て年々殖えて参りつゝあるのである。而かも朝鮮内に於ける人口の密度は相當に濃厚である。特に南鮮六道の如きは内地の夫れに等しく、耕地面積に比して人口過多に苦み、年々歳々數萬に近き人數が内地に職を求めて殺到して、彼地の勞働界を脅威し、色々の社會問題を惹起して居るのが今日の實情である。従て現に實行中の自力更生に依る農村の振興を助長し、夫れを容易ならしめて農民の生活を安定し、米作者は米食の人

たり得る如くして以て半島農民の福祉を今後益々増進せんとするには、換言すれば農村振興問題の根本解決を期する爲には、小規模の未墾地を開いたり、集約營農に依つて収量を殖したり、多角形農法に依つて自足自給を策したり、副業によつて収入の増加を圖つたり、工業の發達を計つて職を與へたりする位の事では大局的に見れば尙十分ではない。夫れだけでは徹底せる効果は擧げ難く眞の樂園樂土の建設は六ヶ敷い。究極の所は狹隘なる地域に蝟集し居る人口を減少して、相當廣い地積上に悠々として働き得るの餘裕を與へる事が極めて緊要である。換言すれば移民政策の遂行に依つて人口問題を始末するに非ざれば農村問題の根本的解決は出來ぬ。此の人口を適當に按配することが農村の眞の禍福を左右する關鍵であり、此の關鍵に觸れることが農村更生の一つの秘訣であると斯く私は常々考へて居たのである。

然るに私の就任當時の帝國の移民の情勢は全然四面行詰り所謂八方塞がりである。南北亞米利加、南洋は素より極く手近の滿洲さへも、條約上の權利までが無視され我が移民が拒否されて居たのである。左りとて吾人は決して手を束ねて狭き天地に踟躕として徒に窒息するを待つものではない。必ずや機を見て何れの方面にか決然立つて進路を開拓せねばならぬ運命に置かれつゝあつたのである。殊に條約上には確たる權利を保有し、而かも帝國民の進出で餘り他邦の迷惑にもならぬ丈でなく、却て土着民の仕合になるべき立場にある接壤地滿洲方面に對しては、早かれ晚かれ過剩人口の捌け口を求めて進むべきであつたのである。其處で濃密に苦みつゝある南鮮地方の人口を稀薄なる北鮮地方に移住せしむれば、夫れは滿洲進出の準備を爲すの意味からしても、南鮮地方の人口の過多を緩和して民衆生活に餘裕を與ふる必要か

らしても、或は内地渡航の朝鮮人を減少して内地の社會問題を緩和する意義よりするも、將又眞の産業開發の意味合よりするも、速に未墾の北鮮の樹海を開拓することは極めて緊要なりと考へましたにより、昭和七年度より此の事業に着手して居りますが、鐵道、道路等の開設も追々と進捗し、夫れに伴ふて林業、農業、牧畜等の各種事業も着々と緒に就き、近く潑刺たる新天地が北鮮の一角に出現せんと致して居る所であります。

滿洲移民

尙之れと關聯を保ち夫れの趣旨精神を徹底せしめて一層効果的ならしむる爲に只今私共の處に於て考慮中に屬する朝鮮人の滿洲移民事業があります。規模に於ては相當多數のものを可成早く短かい期間に移

動し、又精神に於ては單に自國內の人口緩和を圖ると云ふ丈でなく、所謂滿洲の開發、王道樂土の建設、五族協和の具體化にも寄與せしめたきものと考へて居る。究極は鴨綠江や豆滿江は今日政治的には儼然たる日滿の國境であり、又永遠に國境たらしめねばならぬけれ共、經濟的、文化的には左様な七むつかしき境界たるの觀念を漸次稀薄ならしめ度いものと考へつゝ色々と研究を進めて居る所であります。

産金事業

各位御承知の如く我國の經濟上の悩みは輸出入の不均衡、輸入の超過に依る正貨の流出にあると思ひます。而して全然素人である私は常に斯く考へて居たのである。「如何に輸入超過が續いても日本に金さへ多く持つて居れば心配はない、帝國の領土内に多く金を産出しさへ

すれば國際貸借が不均衡なりとて左まで憂ふるには及ばぬ、何處か帝國の領土内に金を豊富に埋藏する所は無いかな」と考へますと同時に、他面古き歴史や傳説を辿りまして、朝鮮から日本や支那へ朝貢したり、修交使を送る時などに携行する貢物又は土産物の内には、多くは金幣又は金製品が加はり居るのを思ひ出しまして、ハハア―朝鮮は過去は産金國であり、今尙埋藏して居りそうなものであると想像して居つたのでありますが、大命を拜して半島に參りまして京城や慶州の博物館の陳列品中に如何にも金が豊富に使はれてあるものゝ多いのを見まして、過去の想像を思ひ出し、金の埋藏國、産金國に非ざる限りは、決して斯様に金を贅澤に使用出来るものではない、又技術の幼稚でありし古代の採鑛事業を以てしては、決して採り盡して居る譯はない、今尙ほ朝鮮の地下には金が豊富に埋藏せられて居ると斯く感じま

した。其處で直に其の道の人に意見を聞きましたが、其の方々の云ふには朝鮮の地下には金はある。乍併多くの場所は含有量が少ないから採掘しても採算が取れるのは乏しい。今の所では年産が五百萬圓から多くて八百萬圓位の程度を過ぎぬ。左して有望なる産金地とは云へぬとの話でありましたから、私は更に進んで夫れは過去に於て隈なく探鑛して見た上の結論であるかと尋ねて見ましたら、未だ餘り左したる努力も拂はれて居らぬ様な話でありましたから、昭和七年度から少額ながら探鑛補助費を支出して愈々産金奨励に取り掛りましたのであります。其の當時の私の考は少し突飛であるかも知れませぬが、産金事業で採算が採れる、採れぬは個人の營利事業としての話である。個人事業としては金一匁が時價五圓ならば夫れの採收費が四圓か四圓五十錢以下でなければ仕事が成立たぬ譯であるが、一朝國家の事業として

行ふ曉には時價五圓の金一匁を六圓出して採取しても差支ない。何となれば採收費の大部分は勞銀である。勞銀は紙幣で國內の細民に撒布せられ、國家は新に無より有を生ずる。即ち五圓の正金を收得するのであるから、不急の救濟土木工事などに巨額の經費を投ずるよりも、眞に朝鮮に相當に金の埋藏量があると云ふならば、國營事業としても大に遣るべきであると斯く考へて居つたのでありますが、其の後漸次行ひました探鑛の結果は、其の有望を示して參りました所へ、恰度金の輸出再禁止、爲替の下落等に依り金時價の値上りを來し、一段と産金事業に拍車を掛け、目下は非常の勢を以て進行しつゝある所であつて、昨八年度の産金額は死藏や密輸出等も相當にある様でありますから、正確の統計は得られませんが、其の道の人の推算によりますと、先づ五、六千萬圓を下らぬ、多く見積る方では七千萬圓位は産出して

居ると傳へて居ります。兎に角朝鮮の産金事業は目下の所では尙準備や探鑛の時代であり、眞の金の産出は今後に在るのであります。昭和六年今日既に帝國全産金高の過半は朝鮮出のものである様である。昭和六年の暮頃金一匁の時價五圓の時に、私は今後十年待たば年産額壹億圓は出し得ると申して居たのであります。其の當時は宇垣は法螺を吹き居ると冷評して居た人もありましたが、昨今は産出額の増加と値上りと兩々相俟つて十年を待たず、今後兩三年の内には壹億圓に達すべしとは多くの専門家の觀測の様である。兎に角駸々たる勢を以て産金事業は發達して居りますが、是非一日も早く左様な黄金時代に致したきものと切望致して居る次第であります。

各種の鑛
案

斯様にして目下は盛に金鑛の探求が行はれて居るのでありますが、何分時の勢と申すものは妙なもので金山探しの副産物として又色々の珍らしい鑛脈が発見され今春來ニツケル鑛とか、リシユーム鑛等も見付かりました様であります。其の他の鑛産物も朝鮮は概して豊富に埋藏して居ります。即ち有煙炭は所々に出ては居りますが、滿洲や内地程に澤山は無い様であります。無煙炭や褐炭は頗る豊富で平壤を中心とする平安道の無煙炭田は既に採掘せられ、江原道のもものは未開發の儘保留せられて居りますが、今や正に開發の計畫進行中である。其の他各所にも相當規模の無煙炭田も存在すれば咸鏡北道の地下には到る所に褐炭の鑛脈が横たはり、鐵も各所に埋藏せられ、現に黃海道載寧、平安南道价川及咸鏡南道利原附近のものは採掘中に屬し、咸北茂山附近の鐵鑛は品質に於ても鑛量に於ても滿洲鞍山附近のものに優り、近く

採鑛に著手すべく其の計畫は餘程進行致して居る様である。同鑛山を
探查した専門の或る博士の話によれば此の山さへあれば、戦争が何年
續いても日本は鐵の自給自足には不自由せぬ、安心であるとの事であ
ります。最近慶南の金海附近にも有望なる大鐵鑛脈ありと傳へて居る。

更に吾人の最も意を強うすべきは、輕金屬の原料たるべき鑛石が、朝
鮮内に豊富に存在することである。世の中の變遷を見ますと武器其の
他の日用器具類は石器時代から銅器、鐵器の時代を経て今は鋼鐵時代
に達して居ると見られます。更に今後之に代りて現るべきものは當然
輕金屬であり、而かも其の時代の到來は餘り遠きを待たず、既に曙光
と申すか前驅と申すかは眼前に到著して居る有様であります。此の輕
金屬の原料が朝鮮内に豊富に保有して居ることは今後に於ける帝國の

非常なる強みである。即ち全羅南道沿岸地方に在る明礬石はアルミニウムユームの原料としての技術的研究は終つて、現に横濱、愛媛縣新居濱、長野縣大町等の諸工場に於て朝鮮の原料を用ひて工業としての試験研究を進めております。又咸鏡南北道の道界附近一帯に在るマグネサイトトはマグネシウムシウムの原料として優秀のものである。數年前迄は滿洲大石橋附近の同鑛が東洋第一のものと認められて居たが、最近の探鑛並に試験分析の結果によれば咸鏡道のそれは滿洲のものよりも、鑛脈も大であり、品質も優良であるとの事で、今や某會社の手によつて工業化すべく其の計畫は著しく進捗して居る趣である。其の他黒鉛、銅、亞鉛、タングステン、水鉛、高嶺土、硅砂等も從來より可なり豊富に産出して居ります。

畢竟するに朝鮮の鑛業は前段に述べたるが如く現在に於ては探鑛又は試験或は準備中に屬するものが多いのであるにも拘らず、既に相當の立場を有しては居りますが、從來技術の智と資本の力が缺けて居りました關係上、眞に抱藏して居る價値を十分に發揮し得ずして近年に至つたのであります。所が最近に至りまして朝鮮の鑛業的眞價も内外に認識せらるゝに至りました結果として、企業家が追々と技術と資本を注入して開發に努力する様になりましたから、數年後の朝鮮の鑛業界は一大進展を遂げて鑛業日本を代表して世界に濶歩し得る様になると思はれます。殊に一段と心強く感じますのは、國防用軍需資源の豊富に埋藏せられて居ることでありませう。

工業の趨

向

朝鮮の工業は尙搖藍期、覆育の時代にあると申してよろしい。紡績、製絲、製麻、製鐵、精糖、陶器、セメント、製粉、製油、硫安、硬化油、醸造、精米、皮革、製紙等各種の相當規模の工場が設立せられて工産高は併合當時の十倍餘に達して居りますけれども、内地の夫れに比較すれば尙足許にも及ばぬ程度のもが多い。然しながら現在に於ても内地に誇り得るもの、又將來内地が到底企及し能はざる特異性を有するものも相當に在りますから、現時は兎に角として朝鮮工業の將來は實に刮目に値するものありと思ひます。

現に咸鏡南道興南の空中窒素の固定工場の如きは大仕掛けて、而かも最新式の設備である點に於ては東洋一、世界中にも比類稀なる偉容を具へて居る。而して各位御承知の如く空中窒素の固定には多量の電力を要する。其の電力を供給する爲、鮮滿國境を西南に流れて黃海に注

いて居る鴨綠江の支流、赴戰江の流域を堰止め、周回十二、三里に亘る大きな湖水を作り、其の水を七里の墜道によりて日本海方面に導き、落差三千餘尺を利用して十七、八萬キロワットの電力を起して居る。此の動力設備なども日本最大のものであり、世界中にも之に匹敵するものは餘り多くは無いとのことである。同會社は今や夫れに隣接する長津江の流域（三十餘萬キロワットの發電力を有す）の一部を利用して更に差當り十餘萬キロワットの電力を起すべく目下工事中である。現在興南には窒素工場の外に金の製鍊及魚油の硬化工場も出來て居りますが、長津江の發電工事が完成し、それが使用し得る曉には、更に先刻述べたるマグネサイトを原料とするマグネシウム製造と數十萬噸の滿洲大豆を加工すべき二種の大工場を作り、尙其の餘剩電力は京城以北の西北鮮地方に供給すべく、今や著々と諸般の施設を進めつゝ

ある。此の外に尙咸鏡北道永安には石炭低溫乾溜に依る製油工場を有して差し當り年二十萬噸の石炭を消化しつゝある。即ち上に述べたる各種事業の如きは規模に於ても或は性質に於ても慥に母國に誇り得るものと存じます。

次は纖維工業の御話に移りますが、現在までも緩慢ながら絶へず進展の経路を辿つて來たのでありますが、今春來突如急速度を以て發達の途に上りたる觀を呈して居ります。即ち既存の各工場は増設擴張を圖り、又鍾紡、東洋紡を始め斯界の大小企業家が競ふて鮮内進出を企圖し、既に其の一部分は實現の緒に就て居る。數年後の朝鮮に於ける纖維工業は頗る壯觀を呈するに至ること、豫期し得る趨勢にあります

南棉北羊

政策

纖維工業に關聯して日本が自給自足の立場上頗る困難し、當惑して居る棉花と羊毛に付聊か御話を進めます。朝鮮は到る處が棉作の適地であり、又緬羊の飼育にも適して居る。就中中部以南は棉作に最も適當する地味を有し、古代より全鮮に互り相當に棉作を爲し來つたのであります。又其の以北は緬羊の飼育に詭へ向の氣候風土でありましたけれども、交通未開不便の爲、生産品の始末に困る關係等よりして小規模の牧羊業者はありましたけれども、永く著しき發達を遂げずして最近に至つたのである。私は就任後此の實狀を仔細に承知しまして、如何にも斯の如き天惠を利用せず、享受せず、空しく棄て置くことは帝國の自給自足に資する國策的見地よりするも、將又多角形營農によ

りて農家經濟の堅實味を増進する必要よりするも、共に遺憾千萬であるかと存じまして色々講究を積ましめ、愈昭和八年度より全鮮に互りて棉作の獎勵を、同九年度より北鮮及西鮮地方を手始めに緬羊飼育の獎勵に著手した所であります。而して現在の棉の作付反別は約二十萬町歩にして、本年は雨量多く氣候不順の爲出來榮は宜しくない方でありませんが、夫れでも實棉一億七、八千萬斤位の收穫はあるものと豫想して居る。而かも其の獎勵は八年度より向ふ十箇年間に作付反別を三十五萬町歩に、收量を實棉四億二、三千万斤に、更に其の後の十箇年間は作付反別を五、六十萬町歩に、收量を實棉七、八億萬斤に達せしむることを標準として努力中であり、此の目標に到達したる曉には、南滿洲に期待する棉作の發達と相俟つて、有事の際に於ける帝國の最少限度の自給自足は確に出來得ることゝ考へます。

又緬羊飼育に關しても朝鮮内には裕に數百萬頭の收容能力はありますから、在來種の繁殖も勉めますが、本年三千餘頭の優良種を濠洲より輸入し、今後も暫くは年々略同數を取り入れて改良増殖を圖るべく計畫して居ります。併し何分にも動物は植物を繁殖せしむる様に簡單には參りかねますから目的の達成までには相當に長年月の經過を必要と致します。先づ概算十年後には十數萬頭、二十年乃至三十年後には三、四百萬頭には達せしむることを得べき見込にして、茲に至りて始めて若干程度に帝國の自給自足の本體に觸れ得ることゝ思ひます。夫れでは如何にも氣長い、間温い様でありますけれども、國家百年の大計として考ふれば何でもない。彼の濠洲が西曆千七百八十八年に希望峰より二十九頭の種羊を輸入したるを手始めとして、夫れが漸次繁殖して千八百四十年には六百萬頭に、最初の輸入より百三十七年後の今日で

は一億二百萬頭に達して、世界緬羊界の主位を占むるに至つた経過に想到すれば、後世の緬羊史上に朝鮮に於ける羊の繁殖發達の急速なるに驚異の筆を執るものがあるかも知れぬと思つて居ります。之が現今の産業界に於て南棉北羊なる一種の標語が高唱せられ大なる努力が拂はれつゝある事業の片影であります。而して此等は朝鮮の貧弱なる財政の範圍内に於て企畫、實施して居る仕事でありますが、母國が大に力瘤を入れるなら棉作も緬羊も更に規模を擴大し年限を短縮することも十分に可能性ありと御承知を願ひます。

工業發展 の動機

只今は工業の御話を致して居る中途から聊か畑違ひの棉作や牧畜へそれて参りましたが、之より更に本筋に立歸りて話を進めます。即ち

今迄に述べ終りました諸工業の外の各種工業も段々と發展の進路を辿り、殊に内外の企業家が昨今朝鮮工業の前途に關し緊張味を以て著眼しつゝある状態は凄まじいものである。斯く朝鮮に於ける工業が有望視されるに至りました原因は色々ありますが、其の重なる點二、四を紹介申上げれば、其の第一に擧ぐべきものは將來朝鮮に於ては低廉なる電氣動力の得らるゝ見込の確立したことである。内地に於ては多數の電氣會社が併立して、同一地方に競争的に重複したる施設を爲し居る關係上資本も嵩み、經營費も高まり、從て會社の利益を相當に保證しつつ、而かも需要者に低廉なる電力を供給し得るが如き統制は頗る困難であると存じます。是が多年内地に於て電氣の統制論が高唱されて居るにも拘らず、今日迄徹底せる統制の行はれざる所以であると考へます。夫れに反して私共就任の當時は鮮内に於ける電氣事業は頗る幼稚

である。然るに多年に亙り調査したる結果に依りますると鮮内には二百四十餘萬キロワット（鴨綠、豆滿兩江本流のものは含まず）の發電の可能水力を有して居る。而かも其の中には先に申述べました長津江、赴戰江の如き内地に於て見ることの出来ない、巨大なる發電適地が其の以外にも所々に存在するのみならず、石炭も相當にあるから火力に依る電力も存外廉く供給出来る所もある。従て此等の電力を適當に利用するならば、由來純粹の農業のみの國として認められ來つた朝鮮自體を或る程度に工業國化することも至難ならずと考へまして就任後早々斯界の權威者を集めて研究を積ましめ電気利用の幼稚なる期間に、此の事業に資本や施設の錯綜重複せざるに先立つて電力統制の方針を定め、其の計畫を樹てしめまして、其の後は、此の確立せる方針計畫を基準として施設せしめつゝある所でありますから、兩三年後に至りまし

たなら漸次低廉なる電力が各方面に配給せらるゝ機運に到達するのである。此等の關係などは敏感なる企業家の注意を喚起し朝鮮工業發展の有力なる誘因たりしものと考へます。

其の他御承知の如く朝鮮は勞働賃銀も内地の夫れに比すれば低廉であり、又原料とても地下資源、農産、林産、水産、畜産等今後相當に豊富に現地より得らるゝの見込も判明致して參り、殊に前年來より日滿間に新關係を生じましたにより滿洲産の原料を利用する工業及滿洲に供すべき製品の工場も、自然に内滿の中間に介在する朝鮮に設置するを有利とする場合多かるべく、斯の如き各種有利なる條件の具備するありて、朝鮮は自然に内外資本家、企業家の角逐奮闘の一大舞臺と化し、將來可なり有力なる工業地となり得る運命に恵まれつゝある所であります。而して斯の如き工業の發展は年々増加しつゝある朝鮮の人口問

題を緩和する點に裨補する所少なからずと期待して居ります。

水産界の

趨勢

朝鮮は御覽の如く三面海を擁し、而かも海の性質が日本海は深くて暖流、寒流が季節を追ふて進退し或は交錯するの特徴を有し、又黄海方面は淺く且つ潮の干満の差著しくして而かも暖流の影響を受くることが多い。南の方面に至りては前二者の中庸の關係を併有して居る。斯の如く三海面とも夫々と特色、特徴を有して居るから魚族、其の他の海産物等も色々と品種多く繁殖の適地も隨所に存在し、將又各季節を通じて沿岸何れの所にか魚群の游戈を見ると申す様に、水産上には極めて恵まれたる、有望の地位に置かれて居る。乍併漁業としては、今日尙原始的の地位を脱却し能はざるも、追々と改善せられつゝあつ

て、近海は素より露領沿海州の沖合や、勃海灣内にまで出漁を試みるの域に達して居る。従て年々と漁獲高も増加の傾向を辿つて居り、昨八年度に於ては併合當時の十五倍に達した進展振りで、今日では京阪地方以西の都會地の方々の食膳に上つて居る魚類は恐らく大部は朝鮮近海出のものであり、江戸の名産たりし海苔の如きも近年は朝鮮沿岸産のものが、淺草海苔のレツテルを打つて東京以西は素より其の以東の家庭にまで入り込んで食膳を賑はして居るが如き有様であります。夫れに加へて前年來政治的にも經濟的にも交通的にも、鮮滿の關係が新になりました御蔭で、此の方面にも今後凡ての物資と共に海産物も相當の販路を開拓し得るの見込もありまして、半島水産界の前途は洋々として勃興の氣運に充ちて居ると申し得るのであります。

商業

次には商業關係に付少しく御話をします。古來朝鮮人の取引の大部分は市場に於て行はるゝの慣例でありまして、今日でも尙毎月五回若は六回の定例市日に依つて行はれ、又産物とても過去に於ては農産物以外には目星しきものも無かつた爲、商業の關係も主として内部の需要に應ずるもの、稀に米の内地移出位のもので一般に極めて幼稚であり、又不振であつたのであります。乍併年を逐ふて各種工業も興り、民衆の文化も向上し、殊に最近對滿事情の一變よりして内外に對する需給の關係も追々と繁くなつて來ましたから漸次商業取引も興隆し、金融も殷盛となりつゝある所である。殊に前刻來述べました所の自力更生によりて民衆の生活が安定し、更に夫れが向上して購買力が増加し、各種工業の發達に依つて物資の動きが頻繁となり、或は鑛山、水産等の

諸業が繁榮し、又滿洲國が健實なる發達を遂げて經濟的の實力が増加して參ります曉には、朝鮮の商業も存外繁昌することゝ思ひますが、此の惠まれんとする好き環境を巧に利用して朝鮮人をして商業方面にも大いに力を伸さしめんとするには其の先決として永年彼等が捉はれ來つた所の農産物と云へば米、樹木と云へば松、財産と云へば土地と云ふ濃厚なる觀念を或程度に稀薄ならしむるの必要があると思ひます。御覽の如く朝鮮人が米なる觀念に捉はれ過ぎて多角形農法を輕視し來りし結果は、米の不作竝に米價の下落は農民の死命を制し、或は内地の米穀對策の如何に、絶えず一喜一憂せざるを得ざる境地に置かれて居ります。松に捉はれ過ぎたる結果は二十餘年來植樹愛林に慘憺たる苦心を拂ひたる結果も汽車の沿道で御目に止まりし様に未だに哀れなる林相を暴露して居るのである。朝鮮の地味に濶葉樹が決して適せぬ

のではなく、近年に至るまで之が扶植に餘り力を用ひなんだのであります。今や針濶混合林の造成に力を盡して居りますから、十數年後には半島の林相にも新面目を劃することゝ思ひます。話が少し横道へ外れましたが三つの捉はれ過ぎたる觀念の最後のものたる財産と云へば土地と申す考が朝鮮人の商工業への進出を大に妨げて居るのであります。私は就任以來勉めて朝鮮在來の人々にも目星しい商工業や金融等にも參加せしめ、發展の地歩を造らせたいと存じまして、新な會社や工場の出來ます際には、殊に企業家の方々に交渉して朝鮮人の參加に便宜を與へる様に手配を致して見ましたけれども、仲々以て豫期する様の成果を見ず思半に過ぐるものがあります。けれども世の中の大勢は何時迄も舊思想に捉はれて居ることを許しませぬから、追追覺醒して參るべく、夫れに伴ふて朝鮮人の商業並に金融等に於ける

教育

立場も向上し堅實になるであらうと心竊かに期待して居る所でありませぬ。畢竟するに朝鮮に於ける商業は夫れ自體、單獨の發展性は乏しきも、半島内に於ける各種産業の興隆と、民度の向上と環境殊に滿洲及極東露領の發展に伴ひ、他動的には相當に今後發達すべきものと考へて可然かと存じます。

段々と話が長くなりましたして御疲の所を御迷惑とは存じますが、教育界の權威者の御集りの席でありますから一言朝鮮の教育に關して全然斯道の素人ではありますけれども、兎に角私が考へて居り、且鮮内に要望して居ります點を御耳に達して御指教を仰ぎたいと存じます。朝鮮に於ても勿論教育の根幹たり指針たるものは勅語であります。私の

就任當時に在つては國家の祝祭日にも國旗を掲揚せぬことは殆んど一般的であり、又一部民衆の感情乃至は學徒の盟休等を憚りて勅語の奉讀さへも控目にして居る所もあつた様であります。斯様な情ない事柄は斷じて看過すべきでなく、夫れを知りました後早速一般の注意を喚起する爲に、國體を尊崇し、君國に忠實に、道義に精進することが、國民たるべき資格の基礎であり、最高の義務である。此の點の修養に缺くる者は如何に學藝技能に堪能なりとも、國民としての資格なきものであり、又左様な人物を養成する學校は國家に無用否有害の存在である。従て斯の如き學徒や學校が萬一ありとせば斷乎として退學せしむるも敢て不可ならず、廢校亦辭する所でないとの意味を諭して、嚴戒を加へましたが、兩三年後の今日に於ては斯様な忌むべき陋習は全く除去せられたのである。然るに往昔より傳來せる人心の荒廢、懶惰の

習俗、生活の窮乏等の域を解脱し得ざる朝鮮の現狀に在つては、何と申しても質實剛健、勤勞好愛の民風を作興し、生活の安定向上を圖ることが急務であり、又夫れが將來に於ける諸般の積極施設の前提であると思はれましたに依り、初等、中等の學校には職業科を設けて、之れに頗る力瘤を入れて居る所である。單的に申せば教育即生活、生活即勤勞の意味合の下に努力せしめつゝある所であります。其の歸結として中等程度の學校新設に付きましても、特殊の原因の存在せざる限りは、當分は實業的のもの以外は之れを許可せざる方針を以て進んで居る。即ち私の就任後今日迄は色々と地方の希望もありましたが、實業學校は十指を以て數へ切れぬ程開設を許しましたけれ共、其の他は一切認可して居りませぬ。そして此の實業學校、殊に農工の教育に關する方面には良い物を廉く作れ、商業に關する部門には良い物を廉く賣れ、

之が世界的に經濟上に吾人が最後の勝利者たるの秘訣である。關稅障壁を築いたり、輸入貿易に制限を加へたりした所で、三年五年は我慢して夫れでも行けるかも知れぬが、常に廉價良品を望む人間自然の欲求に背反する如き無理な仕打が決して永續するものではない。最後の榮冠は良い物を廉く造り、廉く賣るものゝ頭上に來るのは疑ひない。

併し良い物を廉く作る、良い物を廉く賣ると云ふことは、言ふは易けれども行ふは頗る難いことである。夫れには其處に格段なる努力と工夫を必要とする。換言すれば汗を絞り智恵を絞つて始めて目的の達成を庶幾し得るのである。結局は進んで汗を絞り喜んで智囊を絞り、而かも常に國家を念とし道義に勇みて健闘するの實業家が經濟界の覇者たり得る。斯の如き實業團を以て成立せる國家は繁榮して萬邦をリードし得るから此の意義の程好く實現する様に學徒を指導すべく要望し

て居る所であります。其の他教育當事者に對しては、機會ある毎に頭と口のみ働いて、腹と腕のなき人物を造らざる様に、寧ろ頭や口の働きは少々劣つても、腹の据つた確かりした、腕に働きある、コセ／＼しない、ゆとりのある人物を造り上げるべく絶えず努力方を要望してゐる所であります。將又朝鮮では現在の時局に處する方途として次の意味合を以て啓發指導に勉めさせつゝある。即ち今や帝國の一般社會は何となく非常時、國難來の聲におびへて、不安に驅られ、焦燥煩悶に陥り、流言蜚語行はれ、國民將來の進路、歸趨に迷ふて居るのではないかと思はれる。然るに今日の非常時は單に帝國丈けてはない、世界共通である。世界各国共に經濟、思想兩方面に於て全然行詰りに瀕して困り抜いて居る。夫れを如何に打開し突破すべきかに付き藻掻きつゝある所である。其の中では日本は比較的困却の程度は軽い。他の列國

よりも色々と恵まれたる有利の立場にあるのである。其の恵まれたる二三の點を例示すれば、形而上の方面では日本は國の中心が確乎として萬代不易、大磐石である。御互が協力一致、此の中心を確かりと捧持し、之に御縫りさへして居れば極めて安泰である。他の諸邦の如く政機の轉變、政局の波動によりて、國の中心が動搖し、基礎がグラ付く様なものとは全然比較にならぬ仕合せな立場にある。

更に形而下の方面を見ましても、帝國は著しく恵まれたる有利の狀態に置かれて居る。租税、公債、其の他公課等に依る國民の負擔は歐米の諸大國民に比すれば全般的に見て軽い方である。殊に多數諸國の苦んで居るのは世界大戰時に於ける、戦債と賠償金とであるにも拘らず、左様な苦惱は帝國には皆無である。將又資本主義の日本に入り込みたるは、歐米諸國に比すれば日尙淺く、其の餘弊たる貧富の懸隔、

資本の偏在の如きも、歐米の夫れに比すれば遙かに少ない。機械萬能の洪波に翻弄さるゝ失業群も比較にならぬ程度の少數である。工業なども追々と歐米の足跡を離れて獨立獨歩するに至り、就中纖維工業の如きは全然彼の堅壘を摩し、之を凌駕するに至り、彼等をして正に悲鳴を擧げしめつゝあるのが今日の實狀である。商業とても支那がポイコツトすれば更に南洋、印度、亞弗利加、南米と轉々進出して廉くて良い品物を以て著々と販路を擴張し、商權を伸展してゐる。其の他日本の人口は著しき高率を以て年々増加して居る。何と申しても人口の増加は國家の興隆發展の先驅をなし又基調を爲すものである。社會に於て人間の生活が困難となり、人類の神經が過敏となるに連れて人口は減少することである。國家興隆の基調を爲し、國運發展の先驅を爲す所の人口増殖の點に於て、帝國は列強に比すれば極めて優越の立場に置

かれて居る。畢竟するに各國全般に非常時、難局に當面し苦悶せる中
も日本は比較的に恵まれたる、前途に伸び得る餘地の多く存する境遇
に置かれてある。何も悲觀したり焦燥したり懊惱するの必要は毛頭な
い。茲に吾人が此の如き恵まれたる有利の立場を自覺し認識して、緊
禪一番大に健闘努力しさへすれば、列國に先んじて難關を突破し、危
局を打開し、國運を進展せしめ、確かに世界に雄飛することが出來得
るのである。詳言すれば今日は消極退嬰に依つて折角の天惠を空しく
逸してはならぬ所の非常時である。進取積極に依りて遺憾なく天惠を
把握し、天與の仕合なる立場をして大に意義あらしめ、國家の興隆、
雄飛を圖らねばならぬ非常時である。斯る意味合、氣分を以て學徒、
民衆を啓導すべく切々と要望して居る所であります。而して朝鮮其の
者は帝國に於て過刻來述べたる如く、内地よりも色々と尙恵まれたる

特徴を有して居りますから、夫れを仔細に指摘、教示して其の長所、天恵を十分に發揮して帝國の非常時打開の先驅となり、國難突破の前衛たるべき覺悟を以て邁往すべき様指導せしめて居る所であります。尙國民普通教育に關して若干申述べたい。現在では年々の就學率は僅かに二割餘りで其の他は未就學の儘打過ぎて居る状態である。本年初夏の頃來鮮した印度の志士某氏は英國は印度を領有して百年以上にも成り居るが、今日尙就學率は一割八分に過ぎぬ。夫れに比すれば朝鮮は教育上非常に恵まれて居ると申して居りましたが、吾々は決して現狀に満足すべきでなく、一日も早く文盲退治を完成したきものと考へて居りますが、從來の遣り口で參りますれば、財政其の他各種の關係上、尙數十年も掛らねば國民普通教育の眞の徹底は期せられませぬから、今年度二年制の（十歳内外のものを入れる）簡易學校數百を創設して國

結 言

民性の隆治、勤勞好愛の訓練の外單に讀、書、算のみを教ゆることに致し、今後も毎年續々と之れが増加を圖りて速に文盲を退治し、且正規の普通教育は漸を追ふて完備を期する積りであります。此の施設は多數民衆から非常なる歡迎を受けつゝ、喝采裡に半島教育界に進出致して居る所であります。

大層長話を申し上げ恐縮であります。折角御目に掛かりました好機會であるから、あれも御耳に入りたい、是も御聞取り願ひたいと存じまして長時間を費しました段平に御宥恕を願ひます。以上申述べたる事を要約致しますれば現在に於ける半島の天地は明朗快活である。民心は存外落付き、精神は追々と緊肅し、生活は逐年充實し、積弊は漸次

に改善され、産業は次第に勃興の氣運に向ひて、將來の大發展を約束付けられて居ると申し得る。換言すれば朝鮮の眞の開發進展はコレからである。眞の朝鮮の價値の發揮は今後に在りと申して可然と存じます。最後に尙各位の深甚なる考慮を煩はしたきことは、朝鮮産業の發展が將來母國に如何なる影響を及ぼすかの點であります。現在に於ても朝鮮米の移入、朝鮮人の渡航は、既に内地の各方面に可なり甚大なる衝動を與へて居る。斯の如き利害の杆格、矛盾は自然の成行に放任して置くときは動もすれば内鮮間の感情にまでも影響して、面白からぬ結果を招來することなしとは斷言出來ぬ。實に此の間に如何に善處すべきやは内鮮共通に眞面目に考慮せねばならぬ重大問題であると思ひます。朝鮮統治の局に當る吾々としては勿論朝鮮人の福祉増進を考へて萬事を企畫し又施設して居りますが、其の間にも母國との利害、

感情の矛盾、杆格を調和し、除去する點にも十二分の注意を拂つて施設を爲しつゝある所である。産金、棉作、緬羊飼育の奨励、輕金屬工業、無煙炭採掘、移民等の如きは何れも寧ろ母國の歡迎を受くべきものであるけれども、今後に於ける施設萬端が必ずしも悉く左様なる性質のもの許りを以てする譯にも行かぬ。動力、勞銀の廉きが上に、原料は鮮内に於て得られる、或は近く滿洲から得らるゝが如き、或る種の工業には結局内地の夫れより優秀の地位を占め得る可能性が多い。加之ならず鮮内は素より滿蒙、西伯利亞、北支、中支に於ける市場に對しては、朝鮮は交通、距離等の關係よりして内地よりも便宜が多い。斯く朝鮮の將來を達觀するときは八年、十年の後には或る種の産業は必ずや内地の壘を摩し、夫れに脅威を與へ、時に夫れの死活を制するものも生ずることなしとしませぬ。斯の如き關係は滿洲に於ても將

來に於て發生することは豫め考へて置かねばならぬ。從て今より經世家、識者は須らく内鮮滿を通ずる經濟、產業上の統制を單なる掛け聲丈に止めず、眞面目に考究して、行詰りの生ぜざる事前に、夫れの具體化を圖ることが肝要且賢明である。而して此の際徒らに現狀維持の觀念に捉はれ過ぎたり或は過度に少數事業家の利益擁護を主體とするが如き統制、即ち例へば或る地方又は或る種の當業者を保護する必要よりして一般需用者に高價の品物を無理に使用せしむるが如き統制は畢竟するに良い物を廉く造りて世界の經濟戰に最後の優勝を占めんとする期待抱負と一致するものではない。素より或る程度の現狀維持、現當業者の擁護も敢て不可ならざるも、大局の必要の前には現狀更改も辭せざる方針の下に、將來の内、鮮、滿を通ずる經濟及產業上の統制が行はれて各々其の有する特長を發揮させ、相互扶助、共存共榮の精

神が流露する様に導かねばならぬと思惟する。其の際母國の議者、事業家が彼の國際間に於て廣大なる土地、豊富なる資源、尨大なる財力を有する諸大國が、得て現状維持を高唱して居るのと類似共通の心境に墮せざることを極東大局の維持上より、將又民衆福祉の増進上より切望して止まぬものであります。殊に過去に於ける鮮、臺米に對する内地識者一部の態度に顧み一層其の感を深くして居るものである。而して今後展開する斯様な色々の場面に於て朝鮮は極めて重要なる役割を演ずる地位と素質と實力とを有して居る。即ち朝鮮の將來は物心兩方面共に頗る有望であり、前途は多端且洋々たるものありと申上げて此の講演を終ります。

時間に限があつて十分に意を盡さぬ點も多々ありますが、別に御手許に差出してある舊稿朝鮮最近の面影及其の他の文獻の御通覽を願ひ本日の話と照合して朝鮮の全貌を御考察下さるならば本懐の至りに存じます。

下手の長談議を我慢して御聞き取り下さいましたことを深く感謝致します。終りに臨み各位が今後一路平安に視察を遂げらるゝことを祈り、併せて將來君國の爲層一層の御健闘あらんことを望みまして御別れいたします。(終)